

3

主題

経口維持の取り組みについて

副題

～いつまでも食事を自分の口でおいしく食べていくために～

キーワード1：肺炎予防

キーワード2：経口維持

研究(実践)期間

12ヶ月

法人名

社会福祉法人 三育ライフ

事業所名

特別養護老人ホーム シャローム東久留米

発表者(職種)

平林基(施設ケアマネージャー)

共同研究(実践)者

原川昌也(生活相談員)、鈴木さやか(生活相談員)

電話

042-467-1561

FAX

042-467-3040

今回発表の  
事業所や  
サービスの  
紹介

シャローム東久留米は、1階が重介護棟、2階が軽介護棟、3階が認知症棟に分かれ、現在、入所者82名、ショートステイ10名、計92名の方々が利用されている。平均要介護度は4.14、平均年齢86.6歳(平成28年10月1日現在)で、『看とりのケア』などにも取り組んでいる。

### 《1. 研究前の状況と課題》

- ①平成23年高齢者の死亡原因で肺炎が脳血管疾患を抜いて3位になっている。平成26年には全死亡者に占める割合の9.4%となった。また、肺炎の中でも70歳以上の高齢者を対象にすると誤嚥性肺炎が70%を占めている。
- シャローム東久留米の特別養護老人ホームでも平成26年度のうち肺炎が原因で入院された回数が16回でそのうち誤嚥性肺炎は4回となっており、非常に多い割合となっている。再発を防止するため、食事の形態を変更せざるをえなかったり、病院から経口摂取は難しいと言われるケースも少なくない。

### 《2. 研究の目的ならびに仮説》

- ①肺炎または誤嚥性肺炎のリスクが高い利用者を選定し、専門職と連携をしながら適切な口腔内の管理を行なう。そして、肺炎や誤嚥性肺炎での入院を防ぐ。また、嚥下機能の維持に努め、皆が最期まで口から食べる喜びを感じて頂く。
- ②口腔機能の維持の重要性を職員にも伝え、意識や意欲を高める。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ①毎月第3月曜日に経口維持会議を開催する。
- 参加者は歯科医師・管理栄養士・看護師・介護士・相談員・施設ケアマネでそれぞれ専門職の立場から意見交換をおこなう。その際に肺炎のリスクが高い利用者を選定する。

歯科医師による摂食嚥下評価の実施や各専門職からの意見を聞き、その利用者にあった計画書の作成をおこなう。

その後プランに沿った支援をおこない、ミーラウンドの実施をし、毎月開催される経口維持会議で対象の利用者の実施状況や課題について検討をしていく。

- ②介護スタッフに対して歯科医師による肺炎や口腔ケアに対する勉強会を実施。

#### 《4. 取り組みの結果》

- ①肺炎での入院回数と平均入院期間。

平成26年度

肺炎 16回

(そのうち誤嚥性肺炎は4回)

平均入院期間 17.9日

平成27年度

肺炎 11回

(そのうち誤嚥性肺炎は2回)

平均入院期間 15.1日

- ②勉強会后、意識の変化に対するアンケートをとった。結果は下記の通りです。

変化した：9 少し変化した：9

あまり変化しない：0 変化しない：1

- ③Aさんは現在も肺炎で入院をされることなく、過ごされている。取り組みを行なって10か月後には咀嚼機能が回復をされたと歯科医師より評価がある。

#### 《5. 考察、まとめ》

平成26年度と平成27年度では肺炎での入院回数と平均入院期間が共に減少していること、勉強会を開催することでスタッフの口腔ケアに対する意識に変化がみられることが分かった。

スタッフの日頃のケアで肺炎になりにくい口腔の衛生管理が出来ていること、肺炎になったとしても利用者の少しのサインを見逃さず、早期に対応出来ていることが平均入院期間や入院の回数減少につながっていると考えられる。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究（実践）発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

厚生労働省 平成23年人口動態統計月報年計（概数）の概況

#### 《8. 提案と発信》

歯科医師をはじめ介護課、看護課、栄養課、相談課など関わる部署全てと連携をとって、利用者の方が皆最期まで自分の口で美味しく食事が食べることのできるよう、今後も取り組んでいきたいと思う。